

## 片平学区連絡協議会の活動視察

- 日 時：平成26年11月2日（日）午前10時～12時
- 場 所：片平ふれあいセンター（緑区鳴海町字天白9）

### 【片平学区連絡協議会について】



平成23年度に“はじめの一步”部門の助成対象であった片平学区内の老人クラブ「新千鳥会」の花いっぱい運動が発展し、現在は、学区全体で活動しています。

昨年度、環境省の「環境課題に取り組む地域コミュニティへの支援」として全国5箇所のうちの一つに選定され、「E c o カフェミーティング」を開催するとともに、専門家から助言を受けながら活動に取り組み、また、名古屋市の「都市美化功労表彰」の対象となったことがきっかけで、学区全体の環境意識を高めるまちづくり活動へと広がり、今では花と緑の活動がベースの「環境」を切り口としたまちづくりと担い手づくりの活動に展開しています。

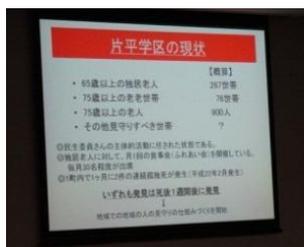


### 【活動の様子】

#### 地域の環境づくり学習会「E c o カフェミーティング」



 秋晴れのこの日、緑区片平ふれあいセンターには131名の参加者が集まり、日本福祉大学の千頭聡教授をコーディネーターに地域の環境づくり学習会「E c o カフェミーティング」が開催されました。



はじめに、片平学区連絡協議会の会長から活動の発表があり、学区の紹介や具体的な活動内容、課題点、各戸前のプランターなどの水やりは各戸にて実施するという独創性、また、今後の発展性として持続可能な活動のための担い手づくりなどがあげられていました。





この取り組みはもともと老人クラブでの独居老人対策で、地域で地域の人を見守りの仕組みづくりからはじまったと話がありました。外へ出るためのきっかけとして、花植えをはじめ、花は手をかけないときれいには咲かないので、手入れのために外へ出る、そのうち、種まきすると声をかけると人がすぐ集まるようになったそうです。



活動している参加者からは、『活動するようになって、話したことがなかった人とも話をするようになった』や『世代を超えての交流ができて楽しい』などの感想がありました。

また、他の参加者からは『自宅の前にひまわりが咲いていて、まちがきれいになった。これからは自分も関わりたい』や『まちがきれいになっていくと思っていたが、誰がやっているのか知らなかった』、『今日初めて、活動していることを知った。自分も参加したい』、『片平学区の取り組みを参考に集合住宅にも取り入れたい』などの活動に対する意見や感想がありました。



住民の意識について、一戸建てと集合住宅では意識が離れていると感じるとの意見もありました。



次に、日本ハンキングバスケット協会の伴和彦愛知県支部長を講師に「はじめませんか？花育」の講義がありました。

花育とは、花や緑に親しみ、育てる機会を通じて、優しさや美しさを感じる気持ちを育むことで、全国の花育の取り組みや花と緑の力と魅力、花のまちづくりの紹介などもありました。

また、愛知県は全国一の「花王国」であり、『生産量が日本一』で、2位の福岡県と比べても3倍近くの花を生産しているそうです。残念なことに消費はいまひとつで、切り花では35位、園芸品・園芸用品に至っては45位だということです。

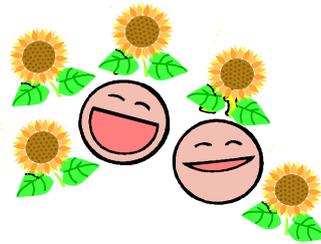
そのような中、片平学区の取り組みは、地域に愛着を持つため、花を使って地域コミュニティを育む素晴らしいものだと感じました。





 その後、会長から参加者に対し、花育の意義と効果が説明され、『子供たちの心と体の成長に、花と緑の力を。私たちは「花育」を支援します。』というメッセージが発信され、『花育により地域コミュニティを育み、みんなで創る住みよい街、片平』が参加者に賛同されました。

 花を育てるとい活動が住民を動かし、地域をより明るく、住みやすいまちにするための仕組みづくりや連携について学び、考え、住民の意識を高め、交流が生まれ、活動を多くの人に広げ、みんなでまちを育て、人を育て、コミュニティが形成されているのだと感じられました。



#### にゃにゃの感想

花を育て、その花を植えることで、まちに花があふれるということだけでなく、子どもから高齢者までが一緒にそれに取組み、そこに交流が生まれているということが素晴らしいと思いました。この取り組みがはじまってから、朝の道で会う中学生が挨拶をしてくれたり、子ども達と話ができるようになったと話をされた年配の方の笑顔がとても印象的でした。これからも、たくさんの花育をとおして、多世代に交流が生まれ、大人も子どもも温かい笑顔がいっぱいのまちになることを願っています。



#### Pecoの感想

この活動の前身となったグループは、“はじめの一步”部門で助成対象となった翌年、残念ながら、地域の“魅力”アップ部門に落選してしまいましたが、日々の地道な活動があったからこそ、環境省の目に留まり、今回の学習会に多くの住民が参加したという結果に表れたのだと思います。

「まちがきれいになった」とまちの変化がうかがえるほどのこの活動が、「自分も参加したい」と住民のまちづくりへ参画する意識を芽生えさせ、今後、さらに多くの担い手が生まれることを願っております。